

サツマイモ「なんたん蜜姫」の優良系統の選抜と高品質安定栽培技術

農業試験場 栽培部 塚 勇人

1. はじめに

「なんたん蜜姫」は串本町で古くから栽培が行われている地域特産サツマイモであり、ブランド化に向けての取り組みが行われている。しかし系統が多数存在していること、粗放的な栽培により収量や品質にバラツキが生じていることがブランド化の障害となっている。これまでにH21年度から24年度にかけて現地と試験場で系統選抜が行われ、2系統が選抜された。そこで本研究では収量向上のための栽培技術の開発と優良系統の最終選抜を行った。

2. 収穫適期、貯蔵期間、マルチ被覆の効果

栽培試験には、H24年度までに現地で選抜された系統②-1と系統Cを供試し、収穫適期・貯蔵期間・マルチ被覆栽培について検討した。

(1) 収穫適期

定植から収穫までの日数を最適な期間を検討するために5試験区（生育80日区・100日区・120日区・140日区・160日区）での収量の違いを調査した。その結果、両系統とも定植から120日以降に収穫すると小型の塊根（100g未満）の割合が少なかった（図1）。

(2) 貯蔵期間

塊根の糖度からみた最適な貯蔵期間（貯蔵温度13℃）を検討するために5試験区（貯蔵0日区・30日区・60日区・90日区・120日区）での糖度の違いを調査した。その結果、両系統とも貯蔵期間30日以上で糖度が高くなった（図2）。

(3) マルチ被覆栽培

マルチ被覆の収量と糖度への影響を調査するために、生育140日区におけるマルチ被覆栽培と露地栽培を比較した。その結果、マルチ被覆により150g以上の塊根の増加がみられ、総収量も増加していた（図3）。また糖度に違いはみられなかった（データ省略）。

3. 優良系統の最終選抜

系統②-1と系統Cを供試し、収量・糖度・採苗性を比較した。その結果、収量調査では系統間で有意な差は見られなかった（データ省略）。しかし、糖度（データ省略）と採苗性（図4）において系統②-1よりも系統Cの方が優れていた。

4. まとめ

以上の結果から「なんたん蜜姫」は、マルチ被覆栽培を行い、定植から生育120日以降に収穫し、30日以上貯蔵するのが適していると考えられた。

また優良系統として、貯蔵後の糖度と採苗性に優れる系統Cを選抜した。

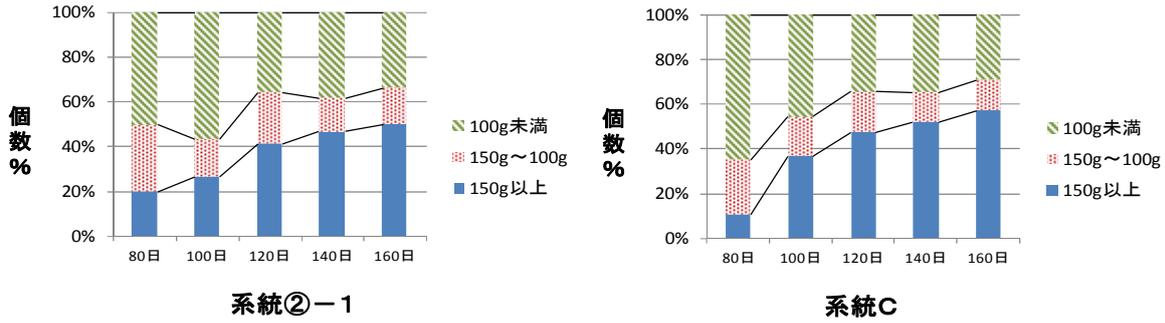
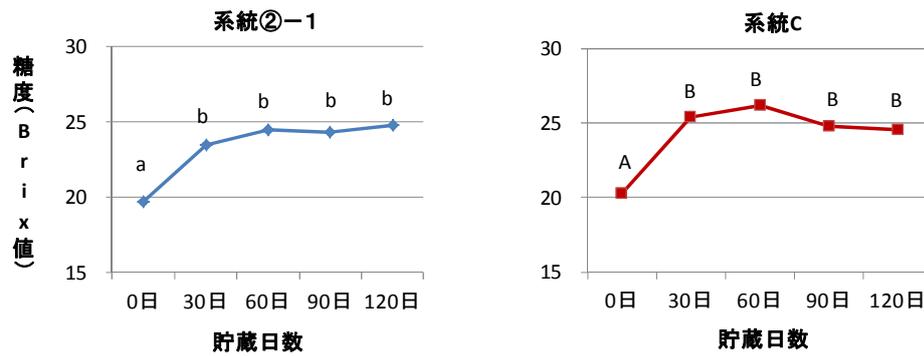


図1 生育期間がなんたん蜜姫の階級構成に及ぼす影響



注) 異英小文字間では、系統②-1の内、異英大文字間では系統C内で、5%水準で有意差があることを示す。(Tukey)

図2 貯蔵期間がなんたん蜜姫の糖度に及ぼす影響

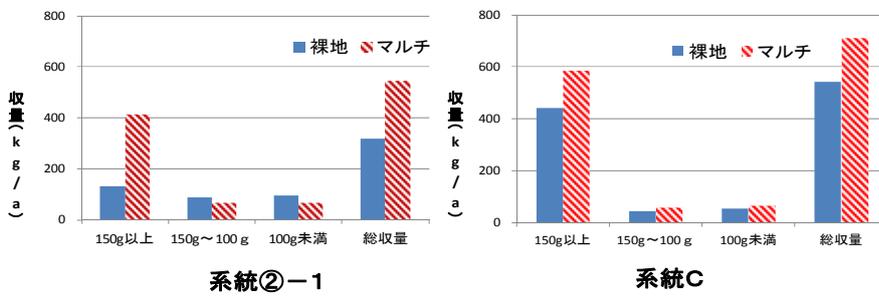


図3 マルチ被覆がなんたん蜜姫の階級別収量に及ぼす影響

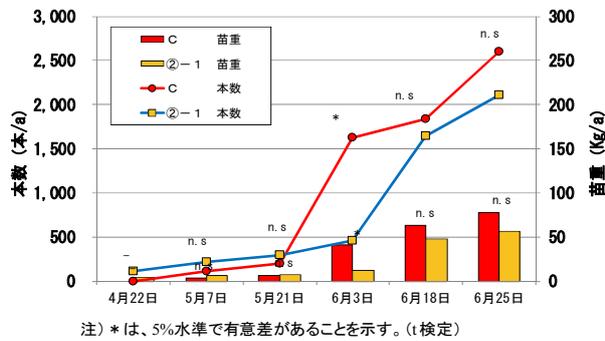


図4 系統②-1とCの採苗本数と苗重の違い